

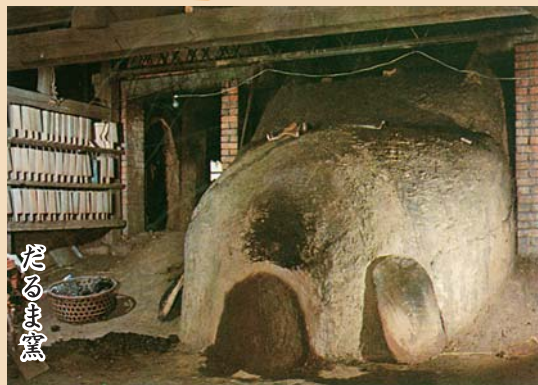
益城の文化財 (27)

つちやまがわら

土山瓦 (小池)

平成19年7月9日付けの熊本日日新聞に、益城町福富において瓦製の「がせい吊灯籠つりとうろう」が発見されたという記事が掲載されました。「慶長10 (1605) 年3月13日土山大工 (職人の長) 新十郎作」と刻まれており、製作年代が確認できる「土山瓦」としては最も古く、熊本城築城とほぼ同時期頃に製作されたと思われます。土山集落で瓦製造が始まった時期は不明ですが、この発見により土山瓦は江戸時代初期から製造がおこなわれ、「小山瓦 (熊本市小山)」とともに熊本城築城当初から使用された可能性が出てきたと専門家は指摘しています。

土山瓦の特徴は、平瓦に「目」という部位を付した「目板瓦」と呼ばれるもので、今ではほとんど見られない珍しい手作りの瓦です。土山瓦は、加藤清正により召し抱えられた「江戸瓦師」の優れた技術と、土山周辺一帯の水田下に広がる良質な粘土と飯田山より燃料となる「松」が豊富に採集できるなどの好条件が揃っていたことにより、細川藩政期においては「御用瓦」としてその名を誇りました。明治維新後は「御用瓦」の制約が取れ、瓦製造の技術を持つ職人により、土山・本土山集落の産業として栄え、県内各地に送り出されました。また最盛期には「肥後土山瓦株



だるま窯

式会社」(大正9年)、「飯野瓦業組合」(大正14年)が設立され土山瓦の発展・振興に貢献しました。戦後は住宅や工場建設が急増し活気を呈しますが、原材料不足やセメント瓦の普及、他県生産瓦の需要増加などで次第に廃業せざるを得なくなり、昭和63年10月には唯一残っていた「だるま窯」に最後の火が入れられ、400年近く続いた「土山瓦」の歴史は幕を閉じました。

現在、飯野小学校に「鬼瓦」や「鯨瓦」をはじめとする資料が展示されており、当時の瓦職人の優れた技術をうかがい知ることができます。



目板瓦

益城町文化財保護委員会

文化会館

イベントスポット

空の玄関口

益城町



広報 ましき

2008. 6月号 No. 381

発行/益城町

編集/秘書広報課

〒861-2295

熊本県上益城郡益城町宮園702

TEL 096-286-3111

FAX 096-286-4523

<http://www.town.mashiki.kumamoto.jp/>
<携帯サイト>

<http://www.town.mashiki.kumamoto.jp/mobile/>

印刷/㈱城野印刷所

本紙は再生紙を使用しています

益城町文化会館自主事業

錦織 健

テノール・リサイタル

7月27日(日)

■開場/午後2時30分

■開演/午後3時

●入場料 (全席指定)

一般: 3,500円 (当日4,000円)

高校生以下・会員: 3,000円 (当日3,500円)

●チケット発売日 6月15日(日)

午前10時から



©K. Miura

■主催: 益城町・益城町教育委員会

■協力: オフセンター

■前売券完売の場合、当日券はありません。

■未就学児の入場はお断りします。就学前のお子様の託児を実施します。

託児を希望される方は、7月20日(日)午後5時までにご連絡ください。

■障害がある方は、優遇制度があります。詳しくは会館までお尋ねください。

●チケット発売所…益城町文化会館/熊日プレイガイド/熊本交通センター/サンリブ健軍/ムサシプラザ/益城町内各郵便局/JA上益城広安支所/のぐち酒屋 (広崎)

●問い合わせ先 益城町文化会館 TEL 096-286-1511

<http://www.town.mashiki.kumamoto.jp/bunka/>